

復興構想案（ゾーニングの考え方とゾーニング図） 修正版

- 考え方1：子孫を津波災害から守るために、高台に住宅地を確保します。
- 考え方2：津波襲来時の避難対策として市街地および集落の近くに避難場所や避難ビル、避難路を整備します。
- 考え方3：市街地の孤立防止対策として内陸側に防災道路を整備します。
- 考え方4：活気ある水産ときれいな浜辺観光を前提にした港まちづくりを目指します。

《中心部エリア》

① 住宅・商業地	<ul style="list-style-type: none"> 津波対策の一環として、住宅地を総合運動場移転跡地の高台、嵩上げ後の鷲神周辺に配置する。 【変更点】水産加工ゾーン背後地(宮ヶ崎)を造成し、住宅地として活用する。 【変更点】針浜は地盤沈下による冠水被害を被っている。今後、万石浦背後地等に代替宅地の整備を検討する。 【変更点】商業施設・観光施設は商業・観光ゾーンに一体的に整備を行うが、住宅地においても日常生活に必要な商業施設を配置する。
② 公共施設 (役場など)	<ul style="list-style-type: none"> 役場等の施設は災害時に防災活動の拠点となるため、高台の住宅地近傍に整備する。
③ 水産加工	<ul style="list-style-type: none"> 水産加工関連施設(女川町地方卸売市場等)は、現位置(石浜)に整備する。
④ 商業・観光	<ul style="list-style-type: none"> 水産加工ゾーンの近傍にあること、さらに住宅地や女川駅からの利便性の面から、市街地中心部に一大商業・観光拠点を整備し、住民・観光客とのふれあいの場の創出を図る。
⑤ スポーツ施設	<ul style="list-style-type: none"> 総合運動場も大きな被害を受けており、修復には莫大な費用がかかる。このため、生命の安全を第一とし、総合運動場周辺を住宅地とし、総合運動場を清水地区へ移転する。なお、地震発生時、運動場利用者は高台の住宅地へ避難する。
⑥ 道路	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路は住宅地や商業・観光ゾーンへの利便性を考慮し配置する。今後、幅員等の安全性も考慮にいたった検討を行う。 震災時、女川町全域が一時孤立したことから、国道 398 号以外に石巻に通じる道路(女川京ヶ森線)を整備する。
⑦ 鉄道	<ul style="list-style-type: none"> 石巻線および女川駅については盛土の状況や地形条件を考慮し、設計する。 清水の新駅については、今後、利用者の見込みや地形条件等を勘案しながら設置可能性を検討する。 【変更点】浦宿駅は、旭が丘や鷲神の新住宅へのアクセスを考慮し、住宅地近傍に移動、配置する。

<p>⑧ メモリアル施設・公園</p>	<ul style="list-style-type: none"> 津波災害の恐怖を後世に伝えるために、津波の到達距離および痕跡が残る町営新田住宅を災害遺構として残す。 <u>【変更点】黄金町周辺の浸水域には鉄筋コンクリ・鉄骨造の倒壊ビルが存在しており、学術的価値が非常に高いことから、一帯をメモリアル公園として整備し倒壊ビルの保存を図る。さらに同ゾーンでは新産業の推進も図る。</u>
<p>⑨ 防災樹林帯</p>	<ul style="list-style-type: none"> 津波の勢いを減衰させるために、湾部および内陸部に防災樹林帯を配置する。
<p>⑩ 避難場所・避難路</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高台に設けた避難場所が孤立しないように避難場所間を結ぶ避難ルートを整備し、普段はハイキングコースとして利用する。

《離半島エリア》

<p>集落のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> 離半島部についても高台移転を基本とし、災害時の孤立への備えとしてヘリポートを設ける。 高台移転後の跡地には、防潮林、漁具置き場などの作業場を設ける。 <u>【変更点】移転候補地を北浦に2箇所、五部浦に3箇所を想定する。</u>
---------------	---